

新規採用教員へのインタビュー



松尾 知里 まつお ちさと

倉敷市立南中学校教諭
(令和元年度採用)

自己紹介

昨年4月に中学校教諭として採用され、特別支援学級を担当し、3年生女子の体育の授業を担当しました。特技は小学校1年生から始めた剣道で、昨年7月に行われた第11回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会では、団体戦のメンバーとして優勝を経験しました。趣味は旅行で、県内各地の観光地めぐり、おいしいものをいっぱい食べて楽しんでいます。

Q 教員を志した理由は何ですか？

小さいころから体育の授業が大好きで、漠然と体育の教員になりたいと思っていました。最初は専門の競技である剣道の指導技術を高めたいと思い高校の教員を目指していましたが、練習を通して、できないことや苦手なことができるようになったり、好きなことや得意なことが増えたりする経験を、多感な中学生の時期に経験してほしいと思うようになり、中学校の教員を目指すようになりました。中学校時代の剣道部顧問の先生との出会いも大きかったと思います。その先生は、剣道が専門ではなかったのですが、「日本一を目指したい」という私たちの思いを真剣に受け止めて、先生自身が私

たち以上に剣道の勉強をし、私たちに寄り添って精一杯指導してくださいました。その先生から、目標を立ててそれに向かって努力した経験は、生きていく上で大きな力になることを学びました。私自身、県外の中学校で講師をしているときに、専門でない卓球部を指導したのですが、その先生の苦労を思い知り、改めて感謝の気持ちでいっぱいになりました。

Q 現任教に赴任してみて、どうでしたか？

特別支援学級の担任をしたのですが、最初はわからないことだらけで戸惑いました。先輩の先生や支援員の方の生徒への声かけの中身やタイミングなどをしっかりと勉強させてもらううちに、少しずつできることが増えていき、自信もついていきました。今は生徒のことを深く理解し、支援の手立てを考えると、とても大切だと考えていて、少人数クラスの特徴を活かして生徒一人一人と時間をかけてか

わりながら、小さな変化や成長を見逃さないようにしたいと思っています。

Q 現在、仕事の中で気をつけていることはありますか？

体育では、「得意な生徒だけでなく、苦手な生徒も楽しめる授業」を目標にしています。それを実現するためにも、生徒に「失敗してもいいから、いろいろなことに挑戦してほしい」と言い続けています。自分の失敗談を話したり、実際に失敗する姿を見せたりすることで、生徒の失敗に対する心理的なハードルが下がるように気をつけています。

Q 目指す教員像や理想の先生について教えてください。

柔軟な発想を持ち、学び続ける教員でありたいと思っています。時代が変わり社会が変わると、生徒に必要な力はもちろんのこと、教員としての自分に必要な力も変わっていきます。日々の教育活動の中で、うまくいかなかったときに反省して改善することはもちろん、うまくいったときもさらなる進化を求めて新たなことにチャレンジしていきたいと思っています。

Q 教員採用試験の対策について教えてください。

特に対策のようなものはないのですが、私にとっては計3年間の講師経験がとても大きかったと思っています。日々の業務の中で先輩の先生方から教員としての在り方や心構え、生徒との向き合い方など多くのことを学ばせていただきました。また、現場で実際に生徒とかかわることで、採用試験で出題される問題と自分の体験が結びつく経験をしました。面接においても、教員への思いを実感とともに自分の言葉でしっかりと語れるようになりました。

Q 休日はどうなことをして過ごしていますか？

オンとオフがかなりはつきりしていると思います。平日夜や土日の剣道の鍛錬では、県内にいらつしやる世界レベルのアスリートの方々と一緒に練習する中で、さらなる高みを目指して精進しています。オフと決めたら、実家に帰って両親とおしゃべりしたり、好きなお菓子を思う存分に食べたりと、およそアスリートとはかけ離れた生活をしてしまっていますね(笑)。